

令和2年度 正智深谷高等学校自己評価シート

| | |
|--------|-------------------------------------|
| 目指す学校像 | 建学の精神「選択」「専修」を踏まえ、 |
| | 1 自己肯定感を育み、他者を認めることができる人間を育てる。 |
| | 2 問題解決に協働して取り組み、他者に貢献できる人を育てる。 |
| | 3 夢（ビジョン）を持ち、そのための地道な努力を継続できる人を育てる。 |

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成（8割以上） |
| | B | 概ね達成（6割以上） |
| | C | 変化の兆し（4割以上） |
| | D | 不十分（4割未満） |

| 第三者評価委員会 | |
|-----------|---------------------|
| (学校評議員 名) | 開催予定日 |
| | コロナウイルス感染拡大のため開催できず |

| | |
|------|-----------------------------|
| 重点目標 | 1 入学者の安定確保と埼玉工業大学への内部進学者の増加 |
| | 2 教育指導力の充実と向上 |
| | 3 浄土宗・宗門校としての宗教教育推進 |
| | 4 危機管理体制の充実と再構築 |

| 学校関係者評価委員会 | |
|-------------|---------------------|
| (学校評議員 名) | 開催予定日 |
| (学校関係者会議 名) | コロナウイルス感染拡大のため開催できず |
| (教職員 8名) | |

| 領域 | 学校自己評価 | | | | | | 第三者及び学校関係者評価 委員からの意見・要望・評価等 |
|----|---|--|--|--|--|--|--|
| | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> 志願者数安定のために、他校との違いを鮮明にし、特色化を進めていく必要がある。ICT、AL、グローバル教育及びSDGsを実践し、その取り組みを周知する。 埼玉工業大学は志願者増が続いているが、安定した定員確保のために、内部進学者が増加するよう高大連携の強化を進めていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 本校教育改革評価への理解 高大連携体制の一層の強化および生徒募集の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ①近隣の公立高校及び競合する私立高校とは異なる特徴ある教育を実践する。 ②中学生やその保護者にも有意義な情報を積極的に発信する。 ③埼玉工業大学と本校、両者の発展のために高大連携実施委員会を積極的に活動するようにする。 ④PTAの会合、学校説明会、中学校説明会において大学入試での優遇制度等を照会する。 | <ul style="list-style-type: none"> 本校教育改革の柱となる新教育課程を編成できたか。 SHIPに基づく新たな取組の実践、外部へは正しく周知できたか。 HPを有効活用できたか。 各種説明会で適切なPRができたか。 新1年生予定者が360名を越えたか。 委員会で高大連携強化のための新たな取組が計画・実践することができたか。 高大交流事業は順調に行なうことができたか。 埼玉工業大学への内部進学者が45名を越えたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 新教育課程の編成作業が終了した。 コロナウイルス感染拡大により説明会は開催できなかったが、少人数の参加による見学会を数次にわたり開催し好評であった。 343名の単願受験者と1200名を超える併願受験者があり、目標を上回る422名の入学者を迎えることができた。 説明会に代わる見学会において高大連携の取組について周知した。 大学自体が閉鎖されていたこともあり、模擬授業等に参加することはできなかった。 埼玉工業大学への進学者は、17名にとどまった。 | <ul style="list-style-type: none"> B B | <ul style="list-style-type: none"> より良い教育課程にするため、引き続き教務を中心に修正を含めた検討を続ける。 学校案内パンフレットWEB版を始めとするデジタル戦略の展開をすすめていく。 受験者増をはかるとりくみにとどまらず、Hコースの位置づけなど、特進コースそのもののあり方を検討する。 埼玉工業大学の募集が好調であり、内部進学についてさらに連携を深める。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> G-CATなど新たな取り組みの着手して3年目となる今年、ICT機器の活用などさらなる教育の充実を図る。 生徒一人一人の進路実現を目指すため、意欲的な学習に取り組めるような系統的な学習指導の実現が必要である。また、課題のある生徒には適切に支援を行なう。 | <ul style="list-style-type: none"> 本校教育改革・新学習指導要領を踏まえた新しい教育への取り組みの充実 学習習慣の定着、大学一般入試に対応できる進路指導体制の確立 | <ul style="list-style-type: none"> ①教務、教科、SHIP委員会の連携により指導法の工夫、指導力の向上を図る。 ②成績不振者への支援対策を充実させる。 ③校内研修の充実を図る。 ④グローバル教育を進める。 ⑤教育環境の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 適切に宿題を課し、生徒の自主的な学習姿勢継続的な家庭学習習慣が生まれたか。 「分かりやすい授業」と「基礎学力の定着」を図る。 コミュニケーション能力育成のための指導が適切に行われたか。 研修の成果を共有し、生徒に還元できたか。 校内改革が順調に行われているか。 補習や駿台サテネットの実施により、受験対策は整っているか。 iPadを授業に取り入れ、教科会議等で共有を図り、教員のスキルアップを図ることができたか。 iPadの授業への導入、G-CATの実施により、教員がスキルアップし効果的な授業ができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染拡大による休校措置がとられる状況下にも映像配信授業を展開することができた。このため、授業進度等において大幅な遅れが生じることがなかった。 コロナウイルス感染拡大により海外研修の中止＝国内コースへの変更となったが、最終的には国内研修旅行も実施できなかった。 困難な状況下にあってもSDGs教育や深谷アンバサダープロジェクトに取り組み、一定の成果を上げることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> B | <ul style="list-style-type: none"> 授業改革担当を教務内におき、外部講師の招聘とあわせて、さらなる授業改善の推進に努める。 駿台サテネットをさらに有効活用できるように工夫する。 SDGs教育を始めとするG-CATの今後のあり方を検討する。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 仏教を通じて日本の伝統を大切にしたい教育、心の教育を実践している。 自己肯定感を育み、自ら考え自ら行動できる能力の育成を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 茶道や華道の授業により情操の涵養を図る。 時代ごとに宗教が果たした役割を理解させながらの学び。 宗教の授業が生徒の人格形成に寄与しているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ①建学の精神や校訓である「選択」と「専修」に基づく人間形成を実現させる。 ②一人一人の適性に合った人間形成が行なわれているか。 ③日本人の習慣や伝統について、基本的な知識が身についたか検証する。 | <ul style="list-style-type: none"> 建学の精神の具現化に向けた取り組みができたか。 宗教行事を学校行事で体験し、一般化した仏教用語や仏教起源の習慣を学び宗教（仏教）が日本文化形成へ果たした役割を理解することができたか。 尊ぶべきものや守るべきものを学び尊厳を持って生きることを学ぶことができたか。 浄土宗宗門校の特色を生かした取り組みで、PTA、地域との連携を深めることができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 全生徒が体育館に集まり法要を営むという従来のスタイルによる宗教行事は実施できなかった。 宗教教育は生徒の情操涵養や人間形成において一定の役割を果たしている。 この一年、PTA活動は支部・本部ともに一切活動ができない状況が続いたことを踏まえ、組織改編を行うことになった。 | <ul style="list-style-type: none"> B | <ul style="list-style-type: none"> 建学の精神をふまえて、「総合的な探究の時間」の位置づけと授業としての「宗教」の時間確保について検討していく。 コロナ感染拡大の状況に対応した宗教行事のあり方を検討する。 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導上の対応は適切な指導が行われている。事件・事故を未然に防ぐため分掌間の連携や外部機関との連携をさらに強化する。 自然災害等、どのようなリスクに対しても適切な対応ができる体制を強化する。 | <ul style="list-style-type: none"> 健康教育の推進と安全確保における支援体制の充実 本校の特性を生かした地域連携の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ①生徒の状況を把握し、教職員間の情報共有・連携より協力体制を ②防災訓練を円滑に実施する。 ③不審者への対応、予期せぬ災害への対応を整える。 ④警察や消防との連携強化やAEDは誰もが使用できるようにす ⑤地元との連携の強化と災害時における障害物の撤去しておく。 | <ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全点検・修繕は適切に行われており、危機管理意識の向上が図られたか。 正智ウェブの活用は適切か。 防災訓練は円滑に行われたか。 不審者対応マニュアルの共通理解はできたか。 自然災害等における緊急対応ができたか。 AED使用方法の研修、確認はできたか。 災害時の避難拠点としての役割を果たすことできたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全点検は必ず行われ、校内での施設事故は全く起こらなかった。 正智ウェブは、日常連絡はもとより、急を要する場合等にも幅広く使用することができた。 防災訓練は順調に行われた。大きな自然災害に直面しなかったが、緊急対応、地域拠点校としての役割は十分果たせる。 | <ul style="list-style-type: none"> B | <ul style="list-style-type: none"> 「学校は安全な場所ではない」という視点で、さらに改善する。全員が取り組める体制を整える。 iPad、正智ウェブとの関連を生かした有効な使用を検討する。 |